

冠水した道路は迂回を！

冠水は見た目以上に危険

その道
通れますか

道路や鉄道等と交差する道路の掘り下げ区間（アンダーパス）や、周囲より低くなっている区間は、地形的に雨水が集まりやすい場所です。

通常の雨では問題ありませんが、短時間に激しい雨が降ると一気に冠水し、進入した車両が立ち往生する事故が発生しています。

冠水箇所に進入すると

水深 30cm	水深 50cm	水深 1m
車が動かなくなります	ドアが開かなくなります	車が浮いて流されます
		
マフラー（排気口）から水が入るとエンジンが停止して車が動かなくなり、立ち往生してしまいます。	水圧でドアを開けることができなくなり、車内に閉じ込められてしまいます。窓ガラスを割り、脱出することになります。	車両が浮いて水流に流されてしまいます。避難路が車両でふさがれ、避難に支障をきたすなど二次的な被害が拡大します。

!! 冠水時は、水深も水の中の様子もわかりません。遭遇したら安易に進入せず、必ず迂回してください。

愛知県ホームページより

豊田市の対策

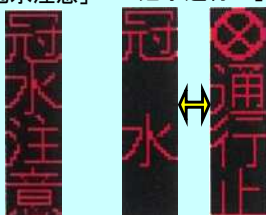
豊田市では、冠水事故を防止するため、さまざまな対策を行っています。

○電光表示板



冠水5cmで「冠水注意」

冠水15cmで「冠水通行止」



交互に表示

○エアー遮断機



通行止水深15cmで作動し、自動で通行止されます。鴛鴨町石根、生駒町宝の2箇所のみ設置されています。

○路面冠水深標示



路面及び側面の標示では以下の水深を標示しています。

○側壁冠水深標示



- ・通行止水深（15cm）
- ・水深30cm
- ・水深50cm
- ・水深1m

アンダーパス冠水啓発動画
二次元コード（Youtube）→



道路の冠水対策

二次元コード（豊田市HP）→

